



共に夢を! 「日本初の多文化共生障害者作業所が誕生」

1992年春、先天性脊椎(せんてんせいせきつひ)カリエスという病気を持つ重度障がい者の私は、故郷の北京から尼崎市に移住しました。日本国籍を取得し、障がい者の国際交流活動を広げるため、NPO法人関西障害者国際交流協会を創立しました。

「障がい者の自立を実現し、芸術・文化・スポーツ等の交流活動を通じて、国境を越えたネットワークを創る。国籍は、あなたもわたしも地球人、すべての人に生きる喜びを!」の運営理念のもとで多国籍障がい者や一般市民、在日外国人等が集まり、様々な国際交流活動を行ってきました。2006年には尼崎市コミュニティ活動功労賞を受けるなど、地域にも密着した活動もしています。

2007年4月、日本の障がい者はもちろん、行き場のない多国籍・多民族の障がい者を支援する為に、日本初の多文化共生小規模作業所としてハオ作業所を開所。2008年4月には利用者が10名を超え、ハオ地域活動支援センターとなり、更に2011年7月、障害者自立支援法に基づく就労継続支援B型施設に認定されました。

現在、22名の利用者は大手物流会社からの袋詰めやシール貼りなどの仕事を請け負い、生産活動を通じて知識と能力の向上に必要な

訓練を受けています。また謹賀春節祭(きんがしゅんせつさい)やアジア家庭菜譜料理試食会(かていやくぜんりょうりしよくかい)、海外から来日障がい者画家の展覧会及びバリアフリー国際旅行などで異文化と触れ合い、体験ができる活動も行っています。ハオ作業所は国籍・民族・障がい等乗り越え、利用者スタッフが家族のように助け合う、笑いの絶えない活気のある施設です。



中国から訪問に来た障がい者仲間から「中国の障がい者は健常者と同様に働き、競いあうので大変です。ハオ作業所は楽しく、ストレスがない素晴らしい場所ですね」と感動されました。

日本初の多文化共生(たぶんかきょうせい)ハオ作業所へようこそ! 共に「夢」を叶えませんか!



田山 華栄 (たやま はなえ)

1958年、中国北京市出身。大学時代から鄧小平(とうしょうへい)さんの長男の鄧僕方(とうぼくほう)さん(前中国障害者連合会主席)たちと一緒に中国障害者自立運動に参加。卒業後は北京市の民生局で障がい者の福祉に全力を尽くす。1996年、日本人男性と結婚し尼崎市に在住。2003年、NPO法人関西障害者国際交流協会を設立。2007年には、日本初の多文化共生小規模作業所(ハオ作業所)を開所。



ビッグ・アイの ゆったり快適な宿泊室に泊ったら ビッグバンで おもいっきり遊んじゃお!

夏限定 ファミリープラン

実施期間: 7月1日(日)~8月31日(金)
夏限定 ファミリープラン (1泊朝食付き)
1室1名 大人6,400円/人 子供3,400円/人
1室2名 大人5,900円/人 子供3,400円/人
1室3名 大人5,740円/人 子供3,400円/人
※子ども料金は3歳以上~小学生までが対象となります。

ビッグ・アイの宿泊室をご利用の方で、小学生以下のお子様がおられるご家族全員に**大型児童館ビッグバンの無料入場券をプレゼント!** 7月1日からは近隣の泉ヶ丘プールも営業を開始。流れるプールや滝プールなど、いろんなプールが楽しめます。この夏はビッグバンで、プールで一日中楽しんで、ビッグ・アイの広いお部屋でゆったりとおくつろぎください。

さあ、今すぐビッグ・アイメイト会員に!

ビッグ・アイのホテル・レストランをはじめに、ビッグバンや周辺ショップの割引など、さらにお得に、もっと便利に、ご利用いただけます!

ホテルレストランが通常料金より10%OFF
会員だけの期間限定キャンペーンも!
情報紙「i-co(あいこ)」で話題の情報や会員特典をチェック!
入会費 年会費 不要



ビッグ・アイメイト限定割引 第1弾

ビッグ・アイのおとなり「大阪府大型児童館ビッグバン」入場料20%OFF
ビッグバンの受付でビッグ・アイメイトカードを提示すると、入場料2割引きでご入館いただけます。
大人1,000円⇒800円 / 中学生800円⇒640円 / 小学生600円⇒480円 / 幼児(3歳以上)400円⇒320円
泉ヶ丘南専門店街の「ボム・ド・テール 泉ヶ丘店」
2012年の6月~8月の3か月間、カードの提示で飲食10%OFF。
お問合わせ 国際障害者交流センター「ビッグ・アイメイト」係 TEL 072-290-0900

クイズでプレゼント!!



クイズ 国際障害者交流センターで知られる建物の愛称は? 「ビッグ・○○」

応募方法 郵便はがき、ファックス、電子メールにてそれぞれ、お名前(ふりがな)、ご住所(郵便番号をお忘れなく)、お電話番号、本紙へのご感想やご希望、ご質問などのご意見をご記入いただき、ご応募ください。正解者の中から抽選で10名様に景品を発送させていただきます。※読者のみなさまからいただいたご意見を「i-co」紙面でご紹介する場合があります。予めご了承ください。
応募期間 2012年6月30日(土)消印有効
※ファックス、電子メールは6月30日午後11時59分送信分まで有効。
お申込先 〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
国際障害者交流センター「i-co」プレゼント係
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 Eメール i-co@big-i.jp

ビッグ・アイの物1 ビッグ・アイ 探検ノート



編集後記
衣替えの季節となりました。セミが古い殻を脱ぐように、本紙「i-co」もリニューアル。より読みやすく、より有意義な情報をお届けするとともに、新たなチャレンジも行っていきたいと考えています。みなさんも新たなチャレンジ、はじめてみませんか?

■個人情報の取り扱いについて
お預かりした読者のみなさまの個人情報につきましては、ビッグ・アイ共働機構が厳重に管理し、本紙の運営・実施の目的に利用させていただきます。目的外での利用はいたしません。また、お預かりした個人情報は、読者のみなさまの同意なしに、業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません。ただし法令等により開示を求められた場合を除きます。

ビッグ・アイ
International Communication Center for Persons with Disabilities
発行・編集: 国際障害者交流センタービッグ・アイ i-co編集事務局
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972
http://www.big-i.jp/
発行日: 2012年5月30日

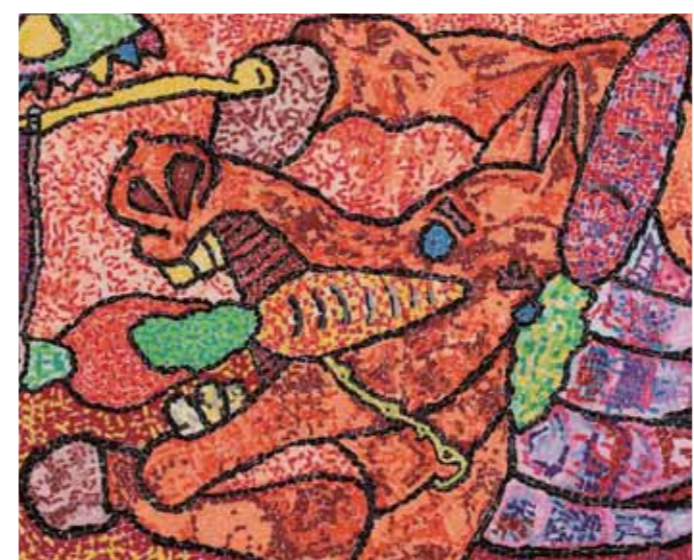


BiG-i Communication Free Paper

い-こ

ビッグ・アイ
コミュニケーション情報紙
FREE
無料
2012
vol.5

【あいこ】勝ちも負けもない同等な関係を表す言葉。「あいこ」は、この分かち合いの精神で、障がいのある人ない人にかかわらずお役に立つ情報を発信していきます。



表紙アート作品: 左上 平安義紀「馬」 右上 仲川佳那「ダリア」 左下 山本大輔「36.7mWh」

BiG-i ART PROJECT って何だ?

特集1
アートプロジェクト、東京へ行く!
特集2
ソーシャル・ファーム?!

ビッグ・アイから東京、そして世界へ。 めざすはアートを通しての発信と共有

障がいのある人もない人も絵を描いたり、体を使って表現したり、または鑑賞したり。身近にふれ、感じるのがアートの素晴らしさです。ビッグ・アイ アートプロジェクトは、この喜びや感動をもっと発信したい、多くの人と共有したい、という思いからスタート。日本全国そして世界に向けたアートの発信や情報収集拠点として、あるいは社会とアート、社会と障がい者の橋渡しとしての役割をめざしています。好評に終わった公募入選作品展の他に、パフォーマンス(舞台芸術)、ワークショップ(体験型講座)などのイベント開催を予定。「面白いな、アート」、「アートって不思議!」…、きっと何かを感じられるから。一緒にアートにふれてみましょう。

「待つ」だけでなく、「仕掛ける」。 手応えを感じたビジュアルアート展

ビッグ・アイでは、障がい者のアート作品を紹介してきましたが、このプロジェクトではビッグ・アイの外に出ることに挑戦。公募入選作品展「共振×響心」は、大阪・東京の2都市で開催しました。多くの人に障がい者アートをアピールすることに加え、作品と作家へのリスペクトを表すこともイベントの狙いのひとつ。応募総数430点の中からアート界で活躍する審査員が選んだ39作品を展示しました。作品展には、美術を学ぶ学生や絵画に興味のある人など、ビッグ・アイにとって今までにない層が来展。さまざまな反応を得たことは大きな収穫でした。東京では審査員によるトークショーも開催。アートへの思いのたけをたっぷり語っていただきました。(2面へ続く→)



特集1
アートプロジェクト、東京へ行く!

多方面で活躍する 先進イラストレーターが語る BIG-i ART PROJECT

上田 バロン (うえだ ばろん)
イラストレーター FR/LAME MONGER代表

目が特徴的で個性的なキャラクターイラストレーションと、カラーや空間を生かした
アグレッシブなビジュアル表現で、広告をはじめ様々な企業とメディアで展開。
google chromeビジュアル/ナイキやマクドナルドコラボ/FM802キャラクターなど。
オフィシャルサイト <http://www.frilamemonger.com>

インフォメーション
7 Segments Presents Group Exhibition #3「Eau」開催
7年継続するプロのイラストレーター5人のグループ展の3回目。
2012年11月28日～12月3日 @Gallery1 (神戸旧居留地)
<http://gallery-ichi.com>

その人しかできない自由な表現を 黙々とやり続ける姿勢に圧倒された

僕が関わる商業アートは、時代の躍動感(やくどうかん)や空気感を映し出すもの。クライアントからのオーダーがあって描くので、コミュニケーションも原動力のひとつだし、多くの人の目にふれて、喜んでもらうことも創作意欲をかき立てます。でも、このプロジェクトの応募作品は自分の内なるものの表現で、時代に迎合するものではない。それでも、作品づくりに没頭できるって何なのだろう?という興味もあるし、刺激されるし、感銘も受けます。僕とは真逆のスタンスなんです。アート界に身を置くひとりとして審査したいなあ、と思いました。とは言え、障がい者アートについてはあまり知識もなくて…。世の中の人と近い感覚で作品を見ようと思い、事前準備はあえてしませんでした。パッと目に入った時の印象が大事な、と。「障がいのある人の作品です」って型にはめて見るのではなく、力のある作品に引き寄せられたかったんです。上田バロン賞は色遣いが大胆で力強く、一瞬で強烈なインパクトが残った作品。自分のデジタル表現でもインパクトや色遣いにこだわるので、共感できる部分がありました。

この作品をはじめとする応募作品を振り返ると、躊躇(ちゆうちゆう)のない大胆な表現が印象に残ってます。彼らの表現に、いい意味で少し末恐ろしさも感じました。今は、早く第二回目の応募作品を見たいですね。その時は、またフラットな気持ちで向き合いたいし、ハツとする作品に出会いたいです。作品として力のあるものに光を当てるのがこのプロジェクトの醍醐味(だいごみ)だと感じています。(談)

アートへの情熱が飛び交ったトーク。 プロジェクトの未来についても提言

東京・渋谷Bunkamura Box Galleryでは、応募作品を審査した金沢21世紀美術館館長秋元雄史氏、書家・アーティスト柿沼康二氏、イラストレーター上田バロン氏によるトークショーを5月1日(火)に開催。障がい者アートの現場に携わる人、美術を学ぶ学生などが集まり、耳を傾けました。実際の作品を見ながら、「体の奥底



から出ざるを得ない部分の表現、計算していないまっすぐさに大きく心を動かされた」(柿沼氏)、「没頭しているのがキャンパスに現れていて衝撃を受けた。どの作品も素晴らしい、選ぶのが難しかった」(上田氏)など印象を述べました。障がい者アートについても「まず知ってもらって、最終的にはアートとして到達すればいいのでは」(秋元氏)「出品したい人がいる限り、作品展は続けた方がいい」(柿沼氏)などそれぞれの思いを語っていただきました。また「ビッグ・アイの独自色を強めたプロジェクトにしていくべき」(柿沼氏)「現代が求めるアートのエッセンスがあると思うから、まずは続けること、そして改善し続けることが大切」(秋元氏)とアート・プロジェクトの今後についても提案。集まった人の心に響く、貴重な時間となりました。

BIG-i ART PROJECT 2012 作品集 募集

お申し込み
必要

締め切り
10/14



■ 図録「ビッグ・アイ アートコレクション 2011」

2011年度は、ビッグ・アイ、ギャラリー菊(大阪)、Bunkamura Box Gallery(東京)にて展覧会を開催しました。



■ 「共振×響心」展
会場：ギャラリー菊(大阪梅田)



■ 「共振×響心」展 案内チラシ

ビッグ・アイ 『アートプロジェクト 2012』 作品募集はじまる!!

ビッグ・アイ アートプロジェクトでは、昨年度に引き続き今年度も公募作品展を行います。昨年度からの変更点は、審査方法が全て実物審査に変わったこと。(昨年度は、1次審査に写真審査がありました。)

「素晴らしい応募作品を全て実物で見たい!」という審査員の方々の強い要望を受けての変更です。この機会にぜひ、あなたの作品をアート界で活躍する審査員の方々に審査してもらいませんか? 皆さまの思いに満ちたアート作品をお待ちしております。

【募集内容】 国内外を問わず、障がいのある方が制作したアート作品で未発表のもの。

【応募資格】 作者本人または親権者、もしくは作者から作品の使用権を移譲された施設・団体。

【応募点数】 各作者につき3点以内とします。

【出品規格】 《種類》 絵画、イラスト、CG、書、写真、造形など。素材やテーマは自由です。
※生花など生鮮物を用いたものや、展示上の制約がある空間アートは対象外とします。
※他者の著作権や肖像権に抵触する作品は対象外とします。
※その他、展示が困難であったり、特別な取り扱いを要するなど、不明な場合は事前にご相談ください。

《額装》 額装は自由ですが、そのまま展示可能な状態でお送りください。
※審査と記録写真の撮影は出品されたままの状態で行いますので、反射や映り込みがないよう、出品時は前面をアクリルやガラスで覆うことを避け、作品の裏側にまわしておいてください。

《大きさ・重量》 展示の制約上、以下のサイズに制限させていただきます。
壁面展示作品：高さ2000mm×幅1200mm以内
その他の作品：幅1500mm×奥行1500mm×高さ2000mm 重量100kg以内

なお、写真作品については、プリントの方法も作品の一部と見なされますので、サイズにもご留意ください。

※通常、4ツ切りサイズ(254mm×305mm)以上が望ましい。

【受付期間】 2012年10月1日(月)～10月14日(日)

【応募料金】 無 料(作品の送料は往復とも応募者負担)

【応募条件】 入選した場合に、作品を一年間ビッグ・アイにお貸しいただき、国内外の展覧会での展示、図録掲載、グッズデザインへの採用などの利用に同意いただけること。

【審査員】 秋元雄史(金沢21世紀美術館館長)／西村陽平(造形作家)／上田バロン(イラストレーター) 柿沼康二(書家・アーティスト)／永野一晃(写真家)

【審査方法】 審査員5名により、ビッグ・アイ賞／審査員賞／入選あわせて30～40作品を選出します。審査結果は10月19日(金)から書面で通知し、11月3日(土・祝)に表彰式を行います。また入選作品は10月30日(火)～11月4日(日)の期間、ビッグ・アイで展示します。

【入選特典】 入選作品は表彰の上、国内数力所の巡回展で展示し、図録に掲載させていただきます。

【応募方法】 応募用紙に必要事項を記入し、作品に添付(封筒に入れて作品梱包の外側に貼付)して、下記までお送りください。
複数作品応募の場合は、1作品ごとに梱包し応募用紙を添付してください。
※応募用紙はビッグ・アイホームページ(<http://www.big-i.jp>)からもダウンロードいただけます。

【運送方法】 ご自身で梱包して、運送業者に着日指定(受付期間中のみ可)で作品の運送を依頼してください。
※運送中の損傷がないよう、作品の保護に充分配慮し、厳重に梱包してください。
※審査終了後の返却は、搬入時の梱包を再使用して梱包しなおし、料金受取人払いで返送いたします。
なお、特別なご依頼がない場合、通常宅配便(フレモノ扱い)【美術品扱いでない】で返送させていただきます。
※ご自身の持ち込みも可としますが、審査終了後の返却は原則として宅配便業者での運送になりますので、運送中の作品保護に充分配慮して厳重に梱包してください。

【その他】 搬入後の作業および審査中は、作品の損傷等がないよう充分に注意いたしますが、万一損傷が発生した場合には、主催者の加入する動産総合保険による補償の範囲内で対応させていただきます。

【応募先
お問い合わせ】 国際障害者交流センター「アートプロジェクト」係
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL072-290-0962 FAX072-290-0972 E-mail museum@big-i.jp



ソーシャル・ファーム?!

「ソーシャル・ファーム」とはイタリアで始まった、障がい者・高齢者・ニートなど就業困難者に仕事を提供する事業所をつくり運営する社会的事業のことです。100%民間資本ではありませんが、市場に受け入れられる製品やサービスを作り、その売上から材料費や人件費を回収して事業を継続します。しかし、福祉が必要な人を雇用して事業経営を成り立たせなければならず、福祉と経営という相反するものを両立させる、ハードルの高い事業でもあります。

本特集では、クリーニング・食品製造・印刷など45もの事業を行い、障がいを持つ一人ひとりに自分に合う仕事を提供している日本の先駆的なソーシャル・ファーム「麦の郷(むぎのさと)」の取り組みを紹介します。増え続ける生活保護受給者。国や地方自治体の財政難。民間事業者撤退による買い物弱者の発生。民間による福祉や社会的事業は今後ますます重要になっていくと考えられます。あなたも「ソーシャル・ファーム」にトライしませんか?

麦の郷仕事開発研究所・所長 柏木さん

麦の郷仕事開発研究所・所長の柏木克之さんに福祉と経営の両立についてお話をうかがいました。

障がい者を地方特産物加工の職人に～生活保護の返上～

農地でとれた農産物をそのまま出荷しても利益は出にくいので、生活できる給料を出すには付加価値をつけることが必要です。麦の郷では付加価値のある商品、つまりこだわりのある商品や食品添加物に頼らない安全な食品を作る技術やノウハウを身につけてもらっています。

農産物の加工・流通・販売を一手に行う～6次産業化～

麦の郷では、耕作放棄地に大豆を植えて納豆を製造し、大手スーパーや農産物直売所で販売しています。農産物直売所は昨年夏に開設しました。近隣の地元スーパーが閉鎖し、日々の買い物に困る方が出てきたため、より多くの声に応えるために移動販売者との提携も行っています。

産業が少ない地方の雇用の受け皿としても、また買い物弱者問題の解決に、そして食料自給率の回復にも耕作放棄地の活用や農業と連携した食品加工・生産販売が持つ意義は大きいと柏木さんは話します。

事業のプロが必要～カンではなくデータに基づいた経営、商品開発、営業力販路拡大～

商品を売るには販売ルートの確保が必要です。また、効率的に経営を行わなければ材料費が回収できず給料も払えません。事業のプロが事業所に1人は必要で、専門家や企業の協力も重要だと柏木さんは話します。麦の郷では中小企業家同友会の経営アドバイスを受けています。

福祉事業所が市場で競争できる商品・サービスを製造するには～設備資金の調達～

スーパーの陳列スペースをもらうには、最低発注数量を決められた納期に納入する事が求められ、機械を導入して製造スピードを得ることが必要になってきます。効率的に食品の安全検査を行うために1台95万円の金属探知機を導入しています。資金集めはどこの事業所でも悩みの種です。麦の郷では篤志家(とくしか)からの出資、金融機関からの融資のほか、障がい者

自ら「わたしたちの工場をつくる」と街頭募金に立ちました。麦の郷は日本政策金融公庫から融資を受けていますが、一般企業と同じ借り入れ条件です。しかし、福祉事業所は金融機関からなかなか融資を受けられない現実があります。「借入優遇や助成金があれば非常に助かります。それだけに助成は、公的資金が無駄にならないよう、事業計画を立てて実行できる事業所に出すべきです。」



ソーシャル・ファーム ピネル 精神保健福祉士 山本さん

麦の郷のクリーニング工場ソーシャル・ファーム ピネルではワタキューセイモア(株)等から病院のシーツ等のクリーニングを請け負っています。売上高は年間9,000万円程度で1億円を目指しています。

ソーシャル・ファーム ピネルの精神保健福祉士として共に働いている山本哲士さんにお話をうかがいました。

納期と品質を厳守する

クリーニングの仕事は大変です。土・日曜日以外の休みは、祝祭日に関係なく仕事があり、夏の作業場は室温40℃を超える暑さです。納期と品質は厳守しています。障がい者の事業所だからといってお客さんに迷惑をかけることは許されません。もしそんなことをすれば次から仕事がもらえなくなります。

障がい特性に合わせる

調子が悪く休むメンバーがいても納期は守らなければなりません。休んでもチームでカバーできる体制を組んでいますが、経済的に自立するためには少しずつ強くなる必要があります。そのためにも、メンバーそれぞれが役割を担い、責任感を持ってもらうようにしています。

いろんな人がいるから回る

スキルや人付き合いの力が高い高齢者、体力のある若年者、真面目さが必要な作業に適性がある精神障がい者など、自分の得意なことや他の人の苦手なところを補うかたちで仕事をこなしています。

麦の郷障害者地域 リハビリテーション研究所 伊藤静美さん

リハビリテーションとはトータルでなければならない!!

麦の郷では、医学的リハビリテーション・職業的リハビリテーション・学習的リハビリテーションなど多岐にわたる分野を地域で行っていることに特徴があります。

ひいては、さまざまなハンディがあることによって奪われてきた人間として生きる権利を再び我が手に取り戻すこと、全人間的権利の回復を応援しています。

病気をすることや、障がいがあることによって人間社会から排除されたり、または追放されるようなことは決してあってはなりません。ここで強調すべきは「人間復権の思想」であって単なる訓練ではありません。「差別をやめてみんな仲良く暮らしましょう!!」的な標語やポスターだけでは啓発にはなりません。

麦の郷は約20年前前から福祉のまちづくりに取り組んできました。具体的な取り組みの一環として、まず法人の担当スタッフや居住のメンバーが連合自治会の会員となり、地区社会福祉協議会の会員や人権委員会や老人会等の役員を担い、また過去には自治会長や副会長を経験し顔の見えるつき合いを続けています。

麦の郷本部所在地の西和佐(にしわざ)住民5,181人(2009年調べ)

雑賀さん

「ぼくらが普通に暮らすのってしんどいんだよ。偏見とか差別もある。でもね、負けやん(負けない)ように一生懸命やらないかん。食うていくには仕方ないんだよ」

20歳の時から精神病院に13年間入院していた雑賀さん。主治医の先生の勧めがきっかけで、現在は麦の郷のクリーニング工場で働いています。今では入院していた病院にクリーニングした衣服を配達し、工場では後輩たちの相談に乗っています。社会保険に入り、クリーニング工場で知り合った奥さんと結婚して17年になります。雑賀さんが病院にいたころは入院生活の長い人が多く、雑賀さんが「退院」を目にしたのは年輩いた患者が亡くなる「棺桶退院」でした。「入院していると、精神病院では患者さんは何も出来ない人と思っているように感じます。精神病でも一人ひとり援助していったら、退院して自立できる人はたくさんいると思っています。」

ミヤジユンさん

白衣のクリーニングを担当している通称ミヤジユンさん。周りの障がい者は年長者ばかり。疲れると休んだり休憩時間に寝たりして、自分の体調に合わせて接し、仕事を教えてくれます。職員たちは一人一人の個性に合わせて接し、仕事を教えてくれます。彼は麦の郷のメンバーとバンド「クラウドイーハーツ」を結成、コーラスとギターを担当しています。バンド活動としては、イベントやライブハウスで演奏しています。毎月のようにライブを重ねるうちに疲労がたまり、仕事に体がついていかない時もあるそうです。「音楽で僕らはつながって頑張ってる。心が病んでも、支え合って生きていけることをたくさんの人に知ってほしい。だから、ぼくたちはやめない。」

中75歳以上の高齢者903人(2011年調べ)と高齢化率の高い(約5人に1人)福祉ニーズを掘り起こすことによって前述する(柏木氏の福祉と経営の両立についての稿参照)仕事おこしにつながり、住民一同が福祉のまちづくりへと問題の共有を図っています。

働くことは社会への入口

まだまだ共生社会づくりの普及啓発が遅れている我が国では、特に居住(グループホームなど)という近隣住民からの反対が表面化し施設の建設は非常に困難をきわめています。「啓発を!」と言うは易しだが誤解や偏見を取り除くということは永遠にできないのではないかと麦の郷づくり35年間の歴史から見てもそう思います。

今すぐできることとして、共に働き、共に遊び、共に支え合って生きていくことを実感できる環境をどうつくり出すか、その意味からいっても就労困難者だけではなく一般の市民の人たちと共に働くことを通して、日々の営みがこの難問を解決していくのではないかと思います。

最後に、親や家族が一生を介護に費やすという今日のあり方ではなく、20歳になったら社会の責任で支援をしていく社会のしくみが必要です。

共同作業所やソーシャル・ファーム、一般企業などと選択肢を広げることは緊急の課題でしょうが、何よりも働く人にとって尊厳のある働き方も、継続する大きな力になることは間違いありません。

濱崎さん

麦の郷クリーニング工場の元請け先・ワタキューセイモア(株)の元工場長・濱崎さん。退職後は福祉に貢献しようとの思いから麦の郷のクリーニング工場に再就職しました。濱崎さんはプロのスキルと豊富な経験でスタッフをサポートしたり、対人恐怖の人に気さくに話しかけて人間関係の作り方を教えています。工場長の時代の濱崎さんのおかげで配達先のお客さんと話ができるようになった人もいます。「みんな自分はダメだと卑下するけど、頑張って仕事がよくできてねんから自分に自信を持ってほしいな。」クリーニング工場には早期退職者も含めて10人の高齢者の人が働いています。



麦の郷

田中秀樹 理事長

「今ある学校の多くは地元の人が土地や私財、労力を出しあって創り育ててきました。障がいをもつ人の支援から始まる共同作業所やソーシャル・ファームは、学校が地域の人に育まれてきたのと同じようにいずれは地域の福祉を充実させることにつながっていきます。共同作業所やソーシャル・ファームなどと共に、地域を作る活動にみなさんも参加しませんか?」



国際セミナー インクルーシブな障がい者雇用の現在

ーソーシャル・ファームの新しい流れー

イタリア発の社会的企業「ソーシャル・ファーム」。消費者に受け入れられる商品・サービスを生産することで、障がい者や高齢者、ニート、刑務所出所者など、就業困難者が収益を得ながら働けることをめざした企業として、評価が高まっています。今回のセミナーでは、ヨーロッパの専門家による講演と、日本の実践者によるパネルディスカッションを通して、就業困難者雇用の今後を探ります。

助成：東京都民共済生活協同組合
主催：公益財団法人 日本障害者リハビリテーション協会、国際障害者交流センター
協力：ソーシャルファームジャパン

日時 2012年6月17日(日) 10:30~17:00
《申込締め切り 2012年6月8日(金)まで》

セミナー定員 300名 **セミナー参加費** 無料

懇親会定員 50名 **懇親会参加費** 1,000円 (ドリンク・軽食付き)

お申込方法 下記申込事項をメール、ファックス、または郵便でお送りください。

氏名、氏名フリガナ、電話番号、同伴者(有・無 ※有の場合は同伴者氏名と電話番号)、郵便番号、住所、点字プログラム(要・不要)、要約筆記(要・不要)、手話通訳(要・不要)、音声補聴(要・不要)、車いすで来場(有・無)、盲導犬同伴(有・無)(以上は記載必須)、E-mailアドレス、FAX番号、懇親会参加(有・無)

お申込先 下記のいずれかにお申込みください。
公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 情報センター 担当:有田・野村
〒162-0052 東京都新宿区戸山1丁目2番1号 TEL 03-5273-0796 FAX 03-5273-0615 E-mail dinf-j@dinf.ne.jp
国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)「フォーラム」係
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1 TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 E-mail forum@big-i.jp

お問合わせ 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)「フォーラム」係
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 E-mail forum@big-i.jp

定員	参加費
300名 定員になり次第締切	無料
お申し込み	締め切り
必要	6/8

当日プログラム

10:40~11:20	基調講演「日本におけるソーシャル・ファームの動向」 炭谷 茂氏(恩賜財団済生会理事長、ソーシャルファームジャパン理事長)
11:20~12:20	講演 1「欧州のソーシャル・ファームの現状と評価」 ケロルド・シュワルツ氏(国際移住機関経済開発局プログラムマネージャー)
13:20~14:20	講演 2「英国のソーシャル・ファームの動向」 フィリーダ・バービス氏(リンクス・ジャパン会長)
14:20~15:00	講演 3「オランダとベルギーのソーシャル・ファームの動向」 バーナード・ジェイコブ氏(ベルギー保健省メンタルヘルスケア改革プロジェクトマネージャー兼全国コーディネーター)
15:15~16:50	パネルディスカッション コーディネーター:寺島 彰氏(浦和大学子ども学部 教授) パネリスト:伊藤 静美氏(社会福祉法人 一麦会 妻の郷) 中崎 ひとみ氏(社会福祉法人 共生シンフォニー)

※セミナー終了後に懇親会を開催致します。(軽食代1000円を当日申し受けます。要申込み)

会場 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)
※泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅すぐ

情報保障 同時通訳・要約筆記付き
※手話通訳・点字プログラム・音声補聴は要申込み



誰もが!自由に!行きたい場所に!



バリアフリー旅行に関する知恵と情報があつまる

サロンに参加して旅行へ行こう!

サロンでは、旅行に関する談話・相談・勉強会を通して、実際に海外旅行を計画し、実行します。昨年度は台湾(4泊5日、約10万円、障がい者5名を含む参加者11名)でした。今年度は、2013年1月上旬に、台湾(台南・高雄)か香港・マカオを予定しています。

サロン・マスターとゲストスピーカー

サロンマスターは、車いすで世界100ヶ国以上を旅した木島英登。豊富な経験と知識、幅広いネットワークで皆さんの旅行計画をサポートします。勉強会のゲストスピーカーには、障がいの当事者、旅行会社、バリアフリーツアーセンターなど、様々な方をお呼びする予定です。

ゲストスピーカーによる勉強会は、10:00~11:30です。



日程 (2012年度)

第1回	7月 1日(日)	「誰もが旅に出よう!」「フランス・ノルウェーのバリアフリー」(通訳付き) 木島英登 / マリリン・バーデン / トーマス・ネーシム
第2回	8月 5日(日)	「バリアフリーツアー」 チックトラベル 松本泰守
第3回	9月 2日(日)	「現地旅先での介助者手配受け入れ」 神戸ユニバーサルツーリズムセンター 野見明子
第4回	10月 7日(日)	「トラベルボランティア」 NPO団体
第5回	11月11日(日)	「旅行体験記」障がい当事者
第6回	12月 2日(日)	「飛行機の利用」 航空会社

時間 9:00 ~ 相談タイム / 10:00 ~ ゲストスピーカーを招いた勉強会 / 11:30 ~ 旅行のプランニング

会場 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ) バリアフリープラザ

対象者 旅が好き。旅をしたい。何らかの理由で旅するのが難しい人及びそんな人々を助けたい人。バリアフリー旅行に興味がある、または勉強している人。年齢・性別・国籍・障がいの有無は一切問いません。個別に相談のある方は、サロンで直接お伺いします。※電話での旅行相談は受け付けておりません。

参加方法 事前の申し込みは必要ありません。開催時にお気軽にお越しください。バリアフリー対応の宿泊施設もありますので、遠方からの参加も大歓迎です。

お問合わせ 国際障害者交流センター「トラベルサロン」係 / 〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 E-mail salon@big-i.jp



ケアフードとは、固いものを食べるのがむずかしい方向けの流動食を表す造語です。



牛肉の赤ワイン煮込み

材料 注:分量は、調理をする上で最低限必要な量です。

● 牛肉(ウデ、肩、スネ肉など)	500g
● 赤ワイン	1/2本
● 玉葱(1cmのざく切り)	300g
● セロリ(1cmのざく切り)	50g
● にんにく	1かけ
● ローリエ	2枚

- 作り方**
- 牛肉は強めに塩、こしょうをふり、他の材料と共に赤ワイン1/2本にひと晩漬け込みます。
 - 材料を漬け汁から取り出し、フライパンで色が変わるまで炒めます。肉に脂が少ないときはバターかオイル、または牛脂を多めに加えます。
 - 漬け汁をこして鍋に入れ、一度沸騰させてアクを丁寧に取り除き、2の材料と共に煮込みパイオンをつくります。(あれば市販のフォンド・ボーカドミグラスソースを加えるとコクが出ます。)
 - 赤ワイン1/2本(分量外)も加えて、紙の落としぶたをしてコトコト煮ます。
 - 煮汁がトロトロになり、肉が舌でつぶれるくらい柔らかくなるまで煮ます。(約1時間から1時間半)肉が十分柔らかくなった後野菜とともに取り出し、さらに煮汁を煮詰めます。煮詰めることで栄養は凝縮され、味にコクと深みが増します。
 - 煮汁半量と肉と野菜をミキサーにかけます。残った煮汁はソースにします。

- チェックポイント**
- 豚肉でも同様につくれる。その場合は赤ワインを白ワインに替えて、パイオンと共に煮込むとよい。
 - 鶏肉ならポトフのようにコトコト煮込んでから、煮詰めたパイオンと共にミキサーにかける。

レシピ提供: 石原 雅弘(いしはら まさひろ)
所属: ホテル メトロポリタン エドモント プレンチレストラン「フォアグレイン」 TEL 03-3237-1111(代)

今、あなたの助けが必要だ!

ビッグ・アイ サポーター

募集

定員	参加費	お申し込み	締め切り
50名 定員になり次第締切	無料	必要	6/8

★登録資格 18歳以上のこころざしのある方
★活動時間 活動日は不定期です。ビッグ・アイがサポーターを必要とする際に、その都度サポーターの登録者に連絡します。
★講座の受講 障がいのある方へのサポートについてご理解いただくため、講座を開催します。日程等については、ビッグ・アイのホームページにて公開します。

ビッグ・アイでは、芸術文化や国際交流、福祉などをテーマに、障がいのない方も共に参加・交流できる様々な事業を開催しています。このたび、当センターの事業運営にご協力いただけるサポーターを募集します。サポーターを希望される方は「サポーター養成講座」(全5回)を受講後、ビッグ・アイで開催されるコンサートやフォーラム・ワークショップで活動(受付・会場案内など)していただきます。誰もが参加でき楽しく鑑賞できるイベント作りを我々スタッフと共に活動していただける方をお待ちしています!

講座のご案内 「視覚に障がいのある方が見えている方と同時に楽しむ」
～音声解説(副音声・状況放送)について～

障がい者を対象に行われる情報サポート、音声解説(副音声・状況放送)とは?第1・2回の養成講座では、講師に吉富順子さんをお招きして、音声解説の現状や制作方法について解説いただきます。実際の映像に音声解説を加えるワークショップも開催。

日時: 第1回 6月22日(金) 13:30~16:00 (受付開始 13:00)
第2回 7月 6日(金) 14:00~16:00 (受付開始 13:30)

会場: 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)研修室

参加方法: 詳しくはホームページ(http://www.big-i.jp)をご覧ください。

講師: 吉富 順子さん
※司会、ナレーター、音声解説者。NHK福祉番組「きらっと生きる」の音声解説を担当したことから、解説放送に関する調査研究活動に参加。ハンターバー冬季パラリンピックでは、視覚障がい者専用ラジオ「JBS日本福祉放送」でアナウンサーを担当。



お問合わせ 国際障害者交流センター「サポーター」係
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 E-mail supporter@big-i.jp



2012 EVENT CALENDAR

6月 17:00~18:00 黄昏ティーコンサート
09 「魅惑のシネマクラシック」音登夢(おとむ)
[土] 木村直子(ヴァイオリン)・木村政雄(チェロ)
問:フロント TEL 072-290-0900

17:00~17:00 国際セミナー
[日] 「インクルーシブな障がい者雇用の現在」
「ソーシャル・ファームの新しい流れ」
多 セミナー 無料 要申込 定 300名 情報保障 手話副 他
問:フォーラム係 TEL 072-290-0962

13:30~16:00 サポーター講座
[金] 「視覚に障がいのある方が見えている方と同時に楽しむ」
研 講座 無料 要申込 定 50名
問:サポーター係 TEL 072-290-0962

10:00~ ビッグバン
[土] ビッグバン13周年特別ワークショップ
「思い出のかんづめを作ろう」
イベント 無料 定 130名
問:ビッグバン TEL 072-294-0999

10:00~18:00
[日] 「第三回 堺よさこい かえる祭り」
多 他 イベント 無料
問:堺よさこい かえる祭り実行委員会 TEL 080-4760-4351

7月 10:00~11:30 トラベルサロン
01 「誰もが旅に出よう!」
[日] 「フランス・ノルウェーのバリアフリー」
小 セミナー 無料
問:トラベルサロン係 TEL 072-290-0962

14:00~16:00 サポーター講座
[金] 「視覚に障がいのある方が見えている方と同時に楽しむ」
研 講座 無料 要申込 定 50名
問:サポーター係 TEL 072-290-0962

17:00~18:00 黄昏ティーコンサート
[土] 「哀愁のコンチネンタルango」
大橋剛バンドネオトリオ
他 イベント 無料
問:フロント TEL 072-290-0900

13:00~14:30(約30分) ビッグバン
[月祝] 「親子で楽しむグリム童話のおはなし会」
イベント 無料 定 300名
問:ビッグバン TEL 072-294-0999

14:00~16:00 サポーター講座
[金] 「バリアフリーシアターってなんだろう?」
研 講座 無料 要申込 定 50名
問:サポーター係 TEL 072-290-0962

~9/2[月] ビッグバン
[土] 「ボネールド世界のあそび体験フェア」
イベント 有料 各回(50分入替制)
問:ビッグバン TEL 072-294-0999

14:00~16:00 日中国交正常化40周年記念
[土] 「芸術文化交流」公演(仮)
多 イベント 無料 要申込 定 1200名 情報保障 手話副 他
問:日中交流係 TEL 072-290-0962

8月 10:00~11:30 トラベルサロン
05 「バリアフリーツアー 旅行 添乗員のハナシ」
[日] イベント 無料
問:トラベルサロン係 TEL 072-290-0962

17:00~18:00 黄昏ティーコンサート
[土] 「60分間世界一周」
田中裕介(テノール) & 橋本美千代(ピアノ)
他 イベント 無料
問:フロント TEL 072-290-0900

11:00~16:00 夏祭り交流会
[日] 「たのしもう。きんど!ぼくと!みんなと!」
多 イベント 無料 要申込 定 300名 情報保障 手話副 他
問:夏祭り係 TEL 072-290-0962

イベント・アイコン表示について

多	多目的ホール	無料	参加費無料
研	研修室	有料	参加費有料
バ	バリアフリープラザ	要申込	予約が必要
他	その他	定	定員数
ビ	ビッグバン	【別途入館料が必要】	

講演会	講演会	情報保障 手話副 他	手話通訳
セミナー	セミナー	情報保障 手話副 他	点字プログラム
講座	講座	情報保障 手話副 他	副音声・状況放送
イベント	イベント	情報保障 手話副 他	その他サービス

各イベント等は開催予定です。事前にご確認ください。